

経費節減！？ まさかの責任追及！？

4月24日付け「お知らせ」・・・「乗務員休養室の浴衣、枕カバーの設置方の変更について」と題する掲示が貼られ、5月1日から乗務員自ら浴衣、枕カバーを設置箇所から取り出し、枕カバーをセットし、さらに使用後に返却するというものでした。

《リニア建設のあおりの乗務員への負担か！？》

これまで寢室に浴衣は置かれていて枕カバーはセットされていました。国鉄時代から続いていた慣習が突然変更になりました。

なぜこの時期、このタイミングで変更になったのでしょうか！？まさかりニア建設のあおりによる「経費節減」ではないでしょうか！？

ちなみに組合と関西支社との業務委員会の場で、組合からこの変更は「経費節減」によるもので「労働条件の変更」ではないかと問うと、関西支社の担当者は「低コスト化、効率的な運用」と応えたそうですが、実際に寢室担当者の業務軽減＝要員削減になり「経費節減」であることは明白です。

《まさか返却忘れが、「注意指摘」！？》

乗務員が浴衣を取りに行き、枕カバーをセットするのも負担になりますが、起床後に返却箇所に返却を忘れたらどうなるのでしょうか！？

これまで寢室にタオルをはじめ私物を忘れただけで管理者から「注意指摘」があり、点呼時にも全乗務員に「注意喚起」する有様。まさか、浴衣、枕カバーの返却忘れを「注意指摘」されることはないでしょうか！？

仮にそのことで「注意指摘」されるようなことになったら、気になり安眠できないばかりか、乗務後に返却忘れに気づいたら当然乗務にも集中できなくなり、「安全安定輸送」に影響を与えかねないこととなります。小さな不安から大きな事故へとつながることとなります。

私たちは乗務員の負担となる浴衣、枕カバーの取り扱いを元に戻すよう訴えるのと同時に「安全安定輸送」に影響を及ぼす乗務員への精神的負担には決してならないよう訴えます！

「経費節減」は、役員報酬一人平均5千万円という高額手当から手をつけたらどうでしょう！？